

第5回	糸魚川市駅北復興まちづくり市民会議 記録簿		
日 時	平成30年12月18日 13:30-16:20	場 所	糸魚川商工会議所会議室
出席者	委員：白沢賢二委員、齋藤伸一委員、青木資甫子委員、小林大祐委員、小坂功委員、本間寛道委員、小出薫委員、土田満委員、野村祐太委員、松木美沙子委員、猪又直登委員、室川亜紀委員、齊藤里沙委員、小竹貴志委員、竹田しをり委員 アドバイザー：伊藤薫氏、西村浩氏 ファシリテーター：吉崎利生氏 (欠席) 木島嵩善委員、丸山剛委員、江口知章アドバイザー		
(協議内容)			
<p>1. 開会 (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定刻のため、第5回糸魚川市復興まちづくり市民会議を始めさせていただく。本日の次第は、お手元の配布資料に記載させていただいたとおりである。</li> </ul> <p>2. 委員長挨拶 (委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このところ寒い日が続いている。4日後には、大火から2年となる節目の日がくる。市民会議も本日で5回目となり、これまでの経過をたどってみる。当初、にぎわいの創出は充実したイベントの取組みと考えられていたが、この会議の意見から、にぎわいは日常市民生活の中に継続されるものでなくてはならないとご指示いただいた。そんな折、まちやどシンポジウムでは大きな刺激を受けた。その後、アドバイザー等からリノベーションの提言があり、駅北にはにぎわい創出の要素が豊かに介在していると示唆された。その中で、ディスカッションを重ね、目指す具体的な姿として3点にまとめ、前回、市長と会頭からコメントをいただいた。その後、リノベーションシンポジウムでは、遊休不動産を活用してエリアを再生する具体例をあげていただいた。本日は次第にあるように、今までの経過を踏まえて、市や会議所が考えるまちづくりについて説明をいただき、意見交換を行い、更に検討を進めていきたい。</li> </ul> <p>3. 議事</p> <p>(1) 市と商工会議所が考えるまちづくりについて (事務局：市)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市では今までも被災者説明会等で、にぎわい創出広場、防災とにぎわいの拠点、リノベーションまちづくりを通じた人材育成の3本の柱で、にぎわいづくりの流れをつくっていききたいと説明してきた。その上で、市民会議において、具体的な取組の提案も検討いただいている。</li> <li>資料1では、前回おこなった中間報告までをまとめた。にぎわいの定義から3つの具体的な取組のテーマを集約いただいた。それを踏まえ、市では今後どのように進めていきたいかを整理した。</li> <li>資料2、にぎわいづくりの展開について。まちなかに人の流れがあり、まちに活気があることがにぎわっている状態ととらえ、その指標として不動産価値の上昇を目安に駅北エリアの価値を上げる流れをつくりだしたい。その中で行政の役割は、まちづくりにつながる場を用意すること。</li> </ul>			

- ・ 図下段、1 リノベーションまちづくりでは、学びと実践の場をつくり、まちに関わる面白い人が育ち、集まるきっかけをつくっていく。
- ・ 2 にぎわい創出広場では、交流やまちづくりへのチャレンジの場をつくり、地域交流を促しながら、小さなチャレンジから新たなビジネスが生まれるきっかけをつくっていく。
- ・ 3 にぎわい拠点施設では、若者や子育て世代が訪れたいくなる場をつくり、子育て世代や取り巻く人が集い、周辺への消費活動につながるきっかけをつくっていく。
- ・ 人材育成から、小さな事業が生まれ、訪れる人が増え、住む人が増えることで、エリアの価値が上がり、持続的なまちの発展につなげていきたい。
- ・ 2 ページ目は、その流れをにぎわいの相関図として表している。3つの項目のほか、にぎわいのトライアングルである老舗事業所とにぎわいの拠点により、また、広場や小路により、回遊と集いの空間として人の流れをつくりだしたい。また、防災の部分については、拠点から広場へその機能を移行し、情報センターについても同様に広場へ移動したい。
- ・ 3 ページでは、リノベーションまちづくりによるエリア再生について、空家、空き店舗の課題に対し、既存物件や新たな公共空間を利用した活動の創出や連鎖により、エリア価値の向上を進める。
- ・ 4 ページでは、にぎわい創出広場について、消費活動の低下や滞在者の減少の課題に対し、まちに滞在する人を呼びこみ周囲の消費活動につなげる、地域交流やチャレンジ等を柱とした集いの場をつくる。
- ・ 5 ページでは、にぎわい拠点の整備について、若者や子育て世代が訪れる機会の減少がまちの活力低下となること、市として子育て支援は重点施策であり、切れ目のない子育て支援の充実が課題であり、それに対し、まちに訪れる機会をつくりながら、妊娠出産から子育ての期間をトータル的にサポートする場をつくる。
- ・ 以上、現在市が考えるまちづくりの展開についての説明。次に商工会議所の役割について。

(事務局：商工会議所)

- ・ まず最初に、会議所の移転については決定しているわけではない。昭和 59 年の完成以来使用しているが、施設の老朽化が進み、今後、大規模なリニューアル費用を検討していかなければと考えていた。その後、大火が発生し、中心市街地があのような状況になった
- ・ 会議所は、会員や市内事業者の支援と各種事業の実施が業務の主体であり、会費や補助金、関係団体からの事務委託費が運営の主な財源である。
- ・ 市で示した復興計画と連携して、会議所も特別委員会を設置し検討した中から、移転の検討もとの意見があった。にぎわいの創出と産業振興の中心地としての機能を充実するため、街中へ移転することも視野に入れ、本年 4 月に移転検討と賑わい創出の特別委員会を設置し、行政と協議しながら検討を重ねている。費用等の課題も多くあるが、今後も引き続き検討をしていく。
- ・ 資料 6 ページ、会議所会館の機能、目的について、会議所としては、各企業の底力をいかに上げて行くかという機能強化を目指したい。そのために、市、金融機関と連携をとり、産業活性化センターなるものを設立し、経済の活性化に総合的に取組んで行きたいと考えている。更に、目的を持ってくる人のハブ機能や、子育て支援と連携で次世代の人材育成や創業支援に取り組んでいきたい。
- ・ 産業振興支援機能としては、産業創造プラットフォームの設立に向けて検討をしている。
- ・ 資料 7 ページでは、プラットフォームの機能面について、多くの企業が様々な課題を抱えている

中、その解決に向けて産官学金一体の総合的支援をしていく。そのため、雇用、マーケット、ブランディングの3つを柱として取り組んで行く。

- 雇用については、女性や企業OBの活躍の場をいかに作っていくか、そのためには、人材育成に力を入れたり、IUターンの受入れのための環境づくりを行う。
- マーケットについては、横のつながりやブランディングも含め、市内外や県外、国外へどのように向かっていくかを総合的に支援する場としていく。
- このような取り組みによって、まちの中にビジネスの方が多く訪れたり、新幹線駅に近い等の立地的条件も利用しながら、このような場を設けて行くということを検討している。
- 以上、会議所からの説明は終わり。

## (2) 意見交換

### (委員)

- 大町区では被災された方等を元気づけるため、月1回お楽しみ会をしている。その際にまちづくりについて意見を伺ったところ、今は家を新築したばかりで生活することに一生懸命で、まちづくりを考えるに及ばないが、今進めていることは大いに協力して行きたい。だが、若者、にぎわいのあるまちづくりを打ち出しているが、高齢者のやすらぐ場所も設けていただきたい。常時、高齢者が集まって、お茶を飲みながら話ができる場所を設けてほしいとの意見があった。
- もう1つは、にぎわい創出広場を含めて、広場が9か所できるが、その位置付けや今後の取組が見えていない。無電柱化のボックスを広場に置くとただの広場になってしまう。将来的にどうなるのか位置付けが見えない。公園なのか広場なのか、せつかく出来ても誰もいない場所になるのではないかとの意見があった。

### (事務局)

- いずれも皆様にご提案できるようにしていきたい。

### (事務局)

- 高齢者の憩いの場ということも聞いている。まちづくりの仕掛けとして、皆様からこういったものがあるといいなという場を提供していきたい。具体的などころについてはぜひ皆様からも検討いただきたい。広場についても、小さい広場から大きい広場まである。今のところ特に限定はせず、皆様からこういった使い方ができるかなどの提案をしていただき、ぜひまちにかかわるきっかけにして欲しいと思っているので、いろんな意見をいただきたい。

### (委員)

- にぎわい拠点施設の合意形成の仕方を確認したい。その必要性とどんなものにするかを誰がどこで議論して決めて行くのか。市民会議はそのプロセスの中でどんな位置付けになるのか。

### (事務局)

- 今回の市の提案は、今までの市民会議の中からも、子どもたちやシェアといった話が出てきているし、保護者からも安心して子育てできる場所が欲しいという意見も聞いている。そういうことから、被災された地域に、そのような施設をつくってはどうかという提案をさせていただいている。これはあくまでも案であるので、出来るものと出来ないものがある。そこで、そのような議論をどこでやるのかというと、まずは市民会議の皆様、こんな施設があったらどうかについてご意見をいただき、あったらいいという方向性を判断いただければ、来年度、具体的な議論する場をつくらないといけないと思っている。

(委員)

- ・ 新聞報道で、市長の発言として包括子育て支援センターということが載っていた。今の説明を聞くとまだ何も決まっていないとのことだが、イメージとしてそれがあたかも決まって進んでいるように懸念する。実際のところ、市としてどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 基本的には、前回市長が皆様と意見交換をした際に申したとおり、行政としてどんなことができるか、皆様がやりたいことをよりやりやすくするためにも、また、市の課題として持っているものをどのように解決するかも考えたときに、このような施設があったら良いのではないかと、市長の思いにも子ども一貫教育方というものもあるので、それらを実現するためにどうかということをお願いした。子どもが遊べる場や子育ての相談できる場、一時預かりや学習できる場など、包括的に行える場があったらどうかという提案をさせていただいた。

(委員長)

- ・ 子育て支援、特に学童保育の実態について市の状況がわからないので、この施設の活用が見えてこない。そのあたりを次回に報告いただきたい。

(事務局)

- ・ 関係部署と相談して、資料を提供したい。

(委員)

- ・ 行政側から子育てという話を聞いたが、会議所の資料の中ではいくつかある取組の一部に子育てが入っている程度である。今後、そこに会議所が入る検討をしていく上で、あまりにも相まみれない場合、別々のことも考えられるのか、合意形成をしっかりとって一つになろうとするのか、現時点での考え方を教えてほしい。

(事務局)

- ・ 可能であれば、人を集める施設として一緒に運営や情報交換をしたいと思っている。子供の頃から色々な情報を与えて、糸魚川の産業に寄与していただける人を育てたいと考えている。一体となって情報発信の基地となり、まちなかに人が集まるような仕組みづくりができればと思っている。

(委員)

- ・ 雁木通りはにぎわいのあるまちづくりの一つのポイントだと思うが、当初想像していた雁木通りとイメージが違うように思う。市はどのように考えているか。

(事務局)

- ・ 雁木は昔から糸魚川の顔だと思う。昔の商店街の方々のおもてなしの気持ちが形になったものだと思う。今回の雁木は、4本足のもので家にぴったりくっついていないものもある。理想としては昔ながらの雁木が良いが、住んでる方の事情等もあるので、なかなか強制はできない。そのあたりのバランスもとりながら、まちにあった最善のものをつくっていききたい。

(委員)

- ・ 現在、子ども連れでも楽しめる駅北をテーマに検討をしているが、拠点にそのようなものができるか議論する内容も変わってくるのかと考えている。これでやりたいというのであれば、拠点を中心に検討した方がいいし、会議所が入るのであれば、職業体験等も検討して行きたいと思っているが、どのような考え方で検討していけば良いか教えてもらいたい。

(事務局)

- 拠点については、現段階では提案をさせていただいたという形になる。拠点の中にこんなものが合ったらどうかというあたりは、来年度検討してもらおうことになると思う。拠点があることで、その周辺でどんなことが出来るか、連携してどんなことができるか等議論していただければありがたい。この施設だけがにぎわうことを望んでいるのではなく、ここをきっかけとして、駅北がどんなまちになれば良いかを皆さんと議論していきたい。

(委員長)

- 意見交換、ご苦勞様でした。ここで一旦休憩します。

(約 10 分休憩)

(委員長)

- 時間になりましたので、会議を再開します。ここからの進行を吉崎ファシリテーターをお願いします。

(3) 本日のワークについて説明

(ファシリテーター)

- 今日は、前回までの検討を踏まえ、駅北におけるにぎわいづくりを明確化、具体化していく。取り組みを、誰に、何を、どのようにを具体化していく。明確化としては、これを実現していくために、ハード面でどんな施設や設備が必要か、また、使い方として、いつ、どこで、というあたりを明確にしていく。各テーブルに半裁になった紙4枚があるので、まずはそこから考えてください。つぎに具体的な部分、1枚ものの紙3枚の方を検討してください。始まる前に、アドバイザーからアドバイスをいただきます。

(4) アドバイザーからポイントアドバイス

(西村アドバイザー)

- 今、紙がいくつか出されたが、手順通りにはなかなかいかないと思う。前回話したことを復習しながら物語を大きくしていったら、それを分解して紙に落とした方がやりやすいと思う。

(伊藤アドバイザー)

- 全体を想像しながら、登場人物を整理してあてはめてみれば、まちのイメージが見えてくると思う。

(5) 具体的な取組の検討 (提案書作成)

- グループに分かれてワーク

(6) 中間発表

(ファシリテーター)

- 一旦ここで、中間報告をしたい。発表できるチームだけで結構。

**【お金を稼げる駅北】**

(委員)

- 一つは「学生」をキーワードに、学生＝参考書から、本をシェアする発想が出た。
- 「稼ぐ」というところから、「ランドリー」が出てきた。コインランドリーで時間を潰すために、

本を置いてみる。本は、みんなで持ち寄ってシェアする。

- ・ 商店街の関係する本を置き、それを旅行者が読み、店を訪問する。旅行者にはコインランドリーが必要。
- ・ ガイドブックを置くことで、旅行者が魅力を感じ、まちを回遊する。
- ・ 高齢者の方も、糸魚川の貴重な本により、高校生等に歴史を伝えたり、話をするきっかけとできる。
- ・ お母さんは、家で洗えないものを洗いながら、本を楽しむ。
- ・ 高校生は、部活の洗濯をしながら、学習ができる。

(委員)

- ・ 商店街からの本は、そのお店の本。こんな本を読んでいる店主がいるとか、仕掛けになる。
- ・ 本を真ん中に置くことで、本来はここで稼ぐことを考えていたが、ここは人がつながりをつくったり集まったりする場所として、そこからスタートして旅行に出る人とか、商店街に行ってみようとか、人がつながる場所の方向になった。

### 【キッズファースト】

(委員)

- ・ ターゲットは「子ども」。今困っていることは、子育て支援センターは土日やっていない。
- ・ 子どもだけで遊ぶところがない。なので、ゲームで遊ぶ。
- ・ 子どもが集まれる場所があれば良い。人が集まれば、遊びが始まる。更に土日にやっていけばなおさら良い。
- ・ 大人の目があれば、ママもゆっくりできる。
- ・ 行った場所で、お昼寝ができたりランチができたら良い。
- ・ ぷらっと行けて、行くと誰かいる場所。身体を動かせる仕掛けがある。交流できる仕掛けがある。
- ・ 昔遊びの体験ができる。高齢者の方々の生きがいにつながる。地域の方々が関わってくる。
- ・ ママの起業やキャリア教育が行われる。
- ・ 管理は民間で。

(ファシリテーター)

- ・ ありがとうございます。一旦、ここで今日は閉じさせていただきますが、引き続き検討したいチームは、そのまま引き続きやっていただい結構です。
- ・ 次回は、最終的なプレゼン用のパワーポイントの雛形をつくって、それを基に発表をしていくことを目途としている。パワーポイントの項目を示すので、それに向けてプランを修練していただきたい。
- ・ また、資料の別紙に、「感想と宣言」という用紙を入れてある。最終的にはこの用紙も記入して、提出していただきたいと思っている。

#### 4. その他

(事務局)

- ・ 次回は、1月25日(金)午後1時半から、商工会議所2階会議室で行います。詳細については後日、改めて案内いたします。

#### 5. 閉会

(事務局)

- 以上で本日の市民会議は終了させていただきます。長時間に渡り、ありがとうございました。  
なお、引き続き検討されるチームについては、そのままお使いください。

以上